

新・さぬき野

かがやくけん、かがわけん。

香川県

2019 No.66

秋



さぬき 鉄旅

「島の食で未来をつくる」 レストランテ フリュウ

「レストランテ フリュウ」は、草壁港から徒歩5分ほど。急な坂道を登った高台にある。



池田漁業協同組合と開発した「小豆島のおさかなでつくったオリーブオイルコンフィ」。サワラ、イカ、タイ、チリメンジャコの4種がある。



マナガツオのソテーの夏野菜添え。瀬戸内海産のマナガツオに、小豆島産のオクラ、ミョウガ、キュウリなど。

東京都・六本木と兵庫県・西宮の、自然派のイタリアンレストランで働いた後、小豆島へ。



「理想の食のスタイルを実践しやす
いだけでなく、おいしいものがある瀬
戸内の島として注目度が高いので発
信もしやすい。恵まれた環境で、やりた
いことが次々出てきてしまっ」渋谷
さんは、島に根を張りその未来を担う
一人になった。

想定外なのは「都会暮
らしよりも忙しくしてい
ること。島の食材を知れ
ば知るほどレストランと
は別の方法でおいしさを
伝えたい。また地元
の人から「この食材、どうにかならない
か」と相談される機会も多くなる。そ
の結果、漁協と共同で魚介のオリーブ
オイル漬けを開発したり、季節の果物
を使用したジェラートショップを出店
したりと、手掛ける事業が増えた。



渋谷 信人さん
山形県生まれ。IT関連会社などで起
業家マインドを持った仲間仲間に入れ
て働いた後、27歳で島の道に入った
運味きのシェフ。



休日には行列ができ、草壁港周辺のラ
ンドマークとなっている「ミニリジェラ
ート」。コンフィもジェラートも、余
剰品の活用につながっている。

香川に住んで

はじめたこと



開業当時は、地元食材の魅力を積極
的に伝えるレストランが島にあまりな
かった。現在は、県産食材がおいしく
食べられる、県認定の「さぬきダイ
ニング」に。

「渋谷のふと
渋谷 信人さんが「レストランテ
フリユウ」
を開いて8年になる。都会のイタ
リアン
レストランで働きながら「いつか
は自然の中にある店を」と考
えて、一番に訪ねたのが小豆島。
空き家バンクで紹介された物件
の庭で、雑木に混ざって立つ一本
の木にレモンがたわわに実って
いた。島が持つ

食のポテンシャルに心が躍った最
初の瞬間だった。

オリーブオイル、かんきつ類、瀬戸
内の魚介、オリーブ牛にニンニク。島
にはイタリア料理に適した食材があ
ふれている。「身近にある季節の
ものを食べるのが健康をつくる」
という意味の「身土不二」
を信条に料理する渋谷さんにと
って、うつつつけの土地。存分に腕
前を發揮し、レストランは近隣の
人にも観光客にも愛される存在に
なった。





普段は仏生山駅前に停車している120号。

さようなら、
大正生まれの
現役電車。



23号の後ろに300号が連結されている。

鉄道のんびり の旅。



鉄製の扇風機

木製の日よけ窓枠

クッションのきいたシート

床も木製

旅は行く先での観光が目的で、
移動時間のことは気にしていない。
そのはずなのに、列車に揺られながら見た車窓の景色や、
車内で食べた駅弁の味が思い出になっている。
そんな人は多いのではないだろうか。
列車には、日常から心を離れさせる不思議な力があるのだ。
香川では、秋色に染まる里山の中を鉄道が走っている。
古い車両や駅の構内にも魅力がある。
カタンコトンと揺れる鉄道のリズムに身を任せて、
秋の「鉄旅」を楽しみたい。

大正14年に製造された23号の車内。

香

川の私鉄：ことんでんでは、自社開発の車両だけでなく、他府県の鉄道会社で型落ちとなった車両を譲り受け、自社のカラーリングに変えて運行している。時間や路線によっていろいろな車両が走っており、かえってそれが鉄道ファンを喜ばせている。中でも人気を集めているのは、大正から昭和初期に建造された4台。イベント時の限定ながら現役で人を運んでいる日本最古級の電車である。

レトロ車両4台の製造年は、大正14年の23号、大正15年の120号、300号、昭和3年の500号となっており、120号・300号・500号は近代化産業遺産に認定されている。現役車両としてオーバーホールされているため、外から見るだけでは車齢90歳を超えているように思えないが、中に入れば印象が変わる。内装は壁や床、日よけの窓枠まで全て木製。帽子掛けが付



いた荷物受け、丁寧な装飾が施された柱などは、蒸気機関車が主役であった製造当時、電車が高級なものと位置付けられていた名残だという。天井に設置された鉄製の扇風機、狭い運転席、手で持つて上下に開閉する窓など、現在の電車とはまるで様子が違う。ここには過ぎ去った時代の世界観が広がっているのだ。クッションのきいたシートに座り、車窓の外で揺れる木々を見ると、タイムスリップしたような感覚にとらわれる。

残

念ながらこれらのレトロ車両は引退が決まった。2020年のGWから、順次姿を消していく。寂しいことではあるが、大正、昭和、平成、令和と4つの時代で活躍できたことは電車にとって幸いだっただろう。残された引退までの時間、大正生まれの電車は、今までと同じ勤勉さで人を運ぶ。



300号には珍しい丸窓が付いている。



仏生山駅のすぐそばには、整備工場がある。



【レトロ車両運行予定】
2019年10月13日(日)、11月24日(日)、12月22日(日)
2020年1月12日(日)、2月23日(日・祝)、3月22日(日)

ことんでん運輸サービス部 TEL087-863-7300



駅のホームで 陽気に一杯。

店を切り盛りしているのは、すぐ近所にあるアイリッシュパブのオーナー。アイランドでは、観光客がパブで地元の情報を入手している一方で、香川にも気軽に情報交換ができる場所を作ろうと考えた。それが駅のホームでの酒屋だったのだ。狙い通り観光客からの人気は高い。特殊なシチュエーションのおかげで居合わせた地元客と会話が弾みやすく、楽しい交流の場ともなっている。



オリジナルの「ことちゃんエール」

こと とでん築港駅は、JR高松駅のすぐ近くにあり、観光はもちろん通勤・通学に欠かせない起点駅。夕刻になると、大勢のビジネスマンやOLが帰りの電車を待っている。混み合うホームの中で、場違いとも言える陽気な存在感を放っているのがクラフトビール専門の酒屋「BEER PUB STATION」である。オープンするのは、金・土・日の17時から19時ごろまで。その時期に応じた世界の一流クラフトビールを販売しており、讃岐うどん用に開発された小麦「さぬきの夢2009」を原料にしたオリジナルの「ことちゃんエール」が看板商品だ。酒屋なのでテイクアウト販売が基本だが、使い捨てのカップを購入することもできる。仕事帰り、ホームで飲むビールは格別のおいしさである。



陽気なオーナー



魚の朝定食



メインと小鉢を選ぶ
昼の定食

運転手を 支えてきた 食堂。



か つてJR四国の主要な駅には構内に職員用の食堂があり、構内食堂と呼ばれていた。今より列車のスピードが遅かったことなどから運転手や車掌の休憩時間に余裕がなく、駅に着いたらすぐに食事が取れるようにとの配慮であったをうだ。今ではほとんど姿を消したが、多度津駅に系譜を受け継ぐ店が残っている。給水塔の下で看板も出さずに営業する、その名も「構内食堂」だ。現在は一般の方も利用できるようになっており、早朝から夕刻まで、休憩時間を挟んで定食を提供している。

多 朝の定食は魚とハムエッグの2種類、昼の定食は日替わりのおかずと小鉢を選ぶ。おかずにはかなりのボリュームがあり、ご飯もたっぷり盛ってくれるのは「ここでエネルギーを満タンにしてほしいから」と店主。運転手だけでなく、役場の職員や高校生など地元の人にも愛されており、お昼時にはあつという間に満員になる。混雑時は相席をするのが暗黙のルールで、駅の職員と地元の方が肩を並べて食事することももある。店の中を、優しい一体感が包んでいる。

多 度津駅は四国の鉄道発祥文化の一つが、ここでしっかり根付いていることに不思議な縁を感じる。



現在も多くの運転手が働く活力を充電している。



秋の
のんびり
鉄道の
旅。



内装の違う3両編成

秋の香川を観光列車で楽しむ。

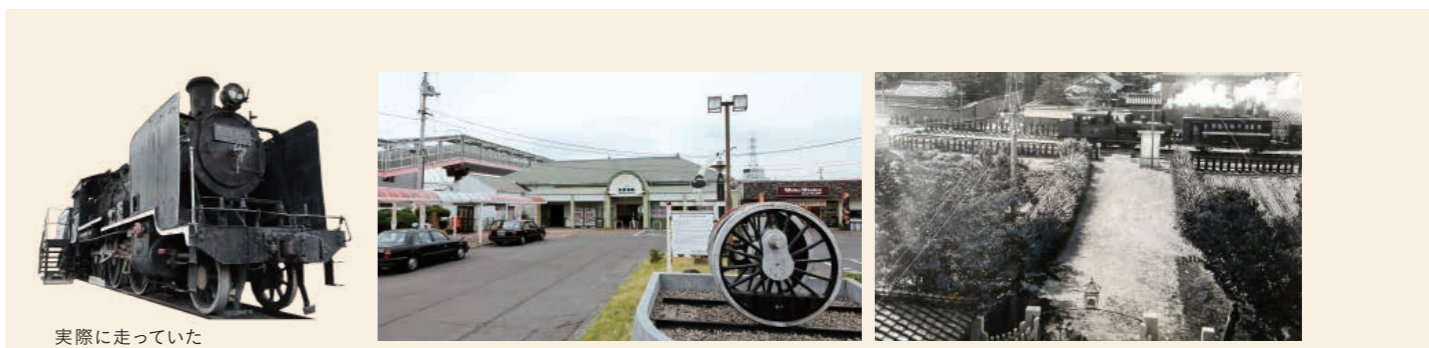
JR四国では、四国の鉄道発祥の地・多度津駅を起点にして、鉄道ならではの小旅行を楽しめる観光列車「四国まんなか千年ものがたり」を運行している。3両編成の車両は、それぞれ違うテーマでデザインされており、いずれも大きく開かれた窓とホテルのような落ち着いた雰囲気を持つ。ゆったりとした座席で上質なサービスを受けながら、四季折々の景色を堪能できる仕掛けだ。多度津駅から徳島の大歩危駅へ向かう約2時間半。途中で立ち寄る駅でも出会いや体験があり、列車での移動時間そのものが旅の目的となる。

景色と並ぶもう一つの魅力は、車内での食事(要予約)である。多度津発のコース「そらの郷紀行」では、金刀比羅宮にあるレストラン「神椿」の調理長が、沿線にある香川の食材を中心とした季節の洋食を提供している。味、盛り付け、彩りの美しさに加え、車内での食べやすさにも配慮する心遣いが、おいしさを一層引き立てている。

多 度津駅を出発した車窓の眺めは、穏やかな香川の里山から迫力のある大歩危の渓谷へと移り変わる。紅葉に染まるそれぞれの風景が、秋の鉄道旅を彩る。



「そらの郷紀行」で提供される今秋の食事メニュー。



実際に走っていたハチロクの展示。

現在の多度津駅(左)と、讃岐鉄道時代に多度津駅周辺を走る汽車(右)。

今 から130年前、明治22年(1889年)5月23日に讃岐の地を初めて蒸気機関車が走った。多度津駅を起点にして、丸亀・多度津・琴平を結ぶ讃岐鉄道(現JR四国)が開業したのだ。香川の鉄道文化は、この日から始まったのである。

開通区間はおよそ16km。ごう音を響かせて走る蒸気機関車は、当時の人には文明開化の象徴のように思えたであろう。多度津の地が起点として選ばれた理由は、港町として栄えており、丸亀港とともに金刀比羅宮参りの船着場であったからだ。志賀直哉の小説「暗夜行路」でも、主人公は尾道から多度津に船で渡り、汽車で金刀比羅宮に向かっている。

1 30年の時が流れ、蒸気機関車からディーゼル機関車を経て電車へと鉄道車両は進歩してきた。多度津駅を利用する人の動きも変わり、起点駅としてのにぎわいはなりをひそめた。それでも多度津駅の西側には、JR四国の唯一の車両工場があり、四国を駆け巡る車両がここに帰ってきている。やはり多度津は四国の鉄道のふるさとなのだ。線路の横に残る蒸気機関車の給水塔(近代産業遺産)や、駅舎の北に展示されている8620形蒸気機関車(ハチロク)は、今に残る讃岐鉄道時代の記憶である。

今年、四国の鉄道は130周年。

SL時代の給水塔



現在の琴平駅(左)と、讃岐鉄道時代の琴平駅前(右)。



※明治21年に愛媛で伊予鉄道が開業しているが、四国全域を走る鉄道(現JR四国)の歴史として130周年となる。



瀬戸内国際芸術祭2019

Setouchi Triennale 2019



秋がひろがる アートでつながる

香川県西部の4島が加わって、最も多くの島を周遊できる秋会期の瀬戸内国際芸術祭。これらの島々がアジアの国のアーティストと結び付き、互いの可能性を引き出し合う。多彩なパフォーマンス、演劇も行われ、最後の日までここだけのアートの刺激に満ちている。

【秋会期】
秋(ひろがる秋)9月28日(土)～11月4日(月・振休)

【会場】
直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島、本島、高見島、粟島、伊吹島、高松港・宇野港周辺

【作品鑑賞パスポート】
秋会期限定パスポート/4,000円
※16歳から18歳まで:秋会期限定パスポート2,500円
※15歳以下無料

【フェリー8航路限定3日間乗り放題乗船券】2,500円
対象航路/高松、宇野、直島、豊島、女木島、男木島、小豆島を結ぶ8航路
有効期間/利用開始日を含む3日間

詳細は瀬戸内国際芸術祭2019公式ウェブサイト
<https://setouchi-artfest.jp>



イベント

秋会期は、
バラエティーに富んだ
イベントも見逃せない。



Photo: Naoya Ikegami

高松

大切な貨物

クリスティアン・バステアンス

11月1日(金)、2日(土)サンポートホール高松

ハンセン病の療養所がある大島をテーマに世界で活躍する俳優が出演するライブ・パフォーマンス。大島に展示される映像作品には、人権問題に深く関わってきた名優リブ・ウルマンも出演する。



豊島

パズル・クリーチャー 豊島にて

ネオン・ダンス

9月28日(土)、29日(日) 甲生海岸

2018年に越後妻有上郷グロブ座で初上演された作品をバージョンアップ。アーティストの荒川修作+マドリン・ギンズの世界から着想を得て、ダンサーたちが時間や空間、複数の地平線を縦横無尽に行き交う。



高松

悪童日記

サファリ・P

10月5日(土) 四国村

戦時下に祖母の家に疎開した双子が、人間の醜さと哀しさ、世の不条理に直面する。簡素な文体で書かれたアゴタ・クリストフの同名小説を、独自の身体性や発語により舞台化。



粟島

せとうち物語 一粟島編一

瀬戸内少女歌劇団

10月5日、12日、19日、26日、
11月2日(全て土)
粟島海洋記念館

一般公募した瀬戸内海育ちの少女とかつての少女たちが、「粟島海員学校物語」を上演。参加型ツアー演劇となる。



小豆島

演劇でみる小豆島のカタチ

香川大学x小豆島夢プロジェクトチーム

9月28日(土)、29日(日) 肥土山農村歌舞伎舞台

香川大学創造工学部の柴田悠基研究室と演出家・豊永純子によるプロジェクトチームが、過去と現在の小豆島をひもとき、演劇を通して未来を考察。

犬島

アントロピーの楽園 -第2章-

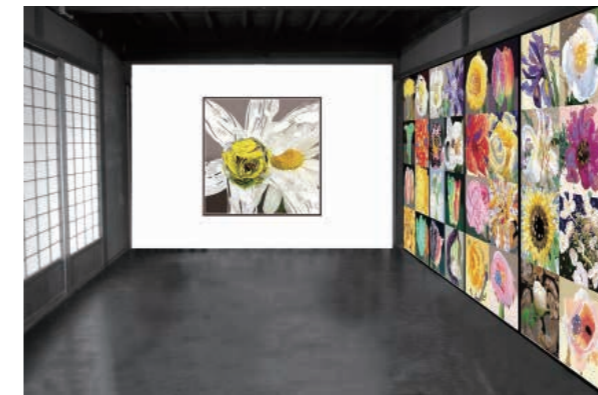
ANTIBODIES collective

10月12日(土)、13日(日)、
14日(月・祝) 犬島内各所

島の随所に役者、ダンサー、舞踏家、ミュージシャンが潜み、突然パフォーマンスが始まる。観客は島内の複数の場所を、マップを持って回遊しながら鑑賞する。



各イベントの詳細は公式ウェブサイトを参照



除虫菊の家/はなのこえ・ころのいろ(参考画像)

高見島

除虫菊の家/静かに過ぎてゆく 除虫菊の家/はなのこえ・ころのいろ 内田晴之(日本) 小枝繁昭(日本)

内田は、過去に島の人々と栽培した除虫菊を用いた燃焼と煙のインスタレーションを行う。小枝(写真)は、島内で出合った花々を写真やオブジェにし、「見ることの喜び」と「心地よい身体性」を伴った空間を生み出す。



(参考画像)

粟島 粟島xベトナム

ヒキコモリ リチャード・ストライトマター・トラン(ベトナム)

日本初といわれる海員養成学校があった粟島。そこで世界中への航海を夢見た少年のような、家の外、島の外への関心をテーマに、小屋の中から潜望鏡で島外を眺める。



(参考画像)

本島 本島xタイ

笠島一黒と赤の家

ピナリー・サンピタック(タイ)

しわく塩飽水軍の子孫、最後の塩飽大工の作業場だった空き家で、タイと日本の伝統工芸品を使用したインスタレーションを展開する。



(参考画像)

伊吹島 伊吹島xインドネシア

壁 エコ・ヌグロホ(インドネシア)

空き家の中に新たに「壁」を立て、人が社会の中で自ら壁を作る状況を表現する。新たな壁が生み出す人と社会の関係、国家間の関係に疑問を投げ掛ける。

知事 香川県高松市に生まれ、6歳でモスクワに渡られた松田さんは、本年6月にモスクワ音楽院ピアノ科を首席で卒業されました。これまで数々のオーケストラと共演し、県内でも素晴らしい演奏を披露してくださっており、昨年は、「かがわ21世紀大賞」を、お贈りいただきました。

から「KAGAWAアンバサダー」にもご就任いただいています。さて、松田さんのお名前は「華音^{かのん}」ですが、音楽の道に進むことを期待されてご両親が名付られたのかと、推測してしまいますけれど…。

松田 香川県は私が生まれた地、幼児期の大切な時期を過ごしたふるさとです。大賞を頂けたということは、香川県のために何かお役に立てたのではと、うれしく思いました。

松田 実は両親が音楽に縁があったというわけではなく、響きが美しいという理由で「華音」と名付けたようです。習い事の一つとして、ピアノを始めましたが、たまたまロシアから来た先生に勧められて、モスクワに留学することになりました。ロシア語にも「決まったルール」という意味の「カノン」という言葉があります。音楽用語にもありますので、「君の名前はカノンなんだね」と海外でも親しみを込めて話し掛けられたことがあります。

知事 漢字では華やかな音と書くわけですから、ご両親には先見の明があったと言えますね。ご両親と香川県



KEIZO HAMADA 浜田 恵造 > 知事 対談 < 松田 華音 KANON MATSUDA

ふるさとで花開く 華麗なピアノコンチェルト

で幼児期を過ごされ、その後も幾度か里帰りをなさっていますが、香川県での思い出やお好きな場所はどこですか。

松田 子どもの頃は、よく国営讃岐まんのう公園に遊びに行きました。私は花が大好きなので、お花畑が広がる公園はお気に入りの場所です。大名庭園に季節の花々が咲く栗林公園、桜や紅葉の美しい「こんぴらさん」にもよく連れて行ってもらいました。どこも美しく心地よい場所なので、その風景のイメージが何かの形で私の音楽の中に生かされれば、ステキなことだと思います。

知事 香川の思い出にモスクワの暮らしが重なる

したが、クリスマスや新年の過ごし方も日本とはずいぶん違うのでしょうか。

松田 ロシアでは、クリスマスよりお正月をみんなで祝う風習があります。正月の定番料理は、「オリヴィエ」というサラダ。また、「毛皮を着たニシン」という名前のサラダもよく作ります。下にニシンが敷いてあり、塩気もあっておいしいサラダです。赤カブを使うので彩りが美しく、まるでケーキのようです。

知事 正月料理ではありませんが、香川県ではお祝いに押しずしを作ることがあります。魚や野菜や卵焼きなどが挟まれていたり、飾られていたり。一見スクエアケーキのような、美しくおいしい料理です。

ことで、松田さんの演奏は深みを増して、印象的なものかもしれませんね。昨年の12月には、県の新聞広報に、「KAGAWAアンバサダーからのお便り」を寄稿していただき、ロシアのクリスマス風景をご紹介くださいました。

松田さんの好きな香川の味というのを思い浮かべますか。

松田 私は骨付鳥が大好きです。母にモスクワで作ってくれるように頼むのですが、香川で食べる味にはなりません。骨付鳥はやつぱり、香川県で食べるのが最高ですね。もちろん讃岐うどんも、ふるさとで食べるのが一番です。こだわりが強いのか、他ではなかなか満足できません。

知事 それでは、骨付鳥や讃岐うどんを楽しみに香川県に帰ってきていただきましょう(笑)。今年の11月29日には香川県のレクザムホール(香川県県民ホール)で、「ゲルギエフ指揮マリインスキー歌劇場管弦楽団香川公演」に再び出演されるとのこと。このコンサートについての意気込みなどをお話してください。

松田 今回は、マリインスキー歌劇場管弦楽団とは初めてとなるチャイコフスキーのピアノコンチェルトを演奏します。高松では、以前にプレトニョフさんの指揮でロシア・ナショナル管弦楽団と演奏したことがありました。この演奏を覚えていくくださる方がおられたら、聞き比べていただくのも面白いと思います。4年前でしたので、自身の演奏も変化していると思います。そう感じていただければありがたいのですが。

知事 演奏も一期一会、会場やお客さまによっても変わってくるのでしょうか。そうすると、松田さんが生まれた香川県での演奏会は特に楽しみですね。香川県は例年であればちょうど紅葉の美しい頃です。夜間のライトアップもある栗林公園や小豆島の寒霞溪など讃岐路の秋も楽しみに、全国の皆さまにお越しいただきたいと願っています。本日はお忙しい中ありがとうございました。



香川県知事
浜田 恵造

ピアニスト
松田 華音

香川県高松市生まれ。4歳でピアノを始める。6歳でモスクワに渡り、ロシア最高峰の名門音楽学校、モスクワ市立グネーシン記念中等(高等)音楽専門学校ピアノ科に入学。2013年2月、最優秀生徒賞を受賞。首席で卒業後、モスクワ音楽院に日本人初となるロシア政府特別奨学生として入学。2019年6月に首席で卒業。2009年AADGT 国際Young Musician Competition(ニューヨーク)第1位など、受賞歴多数。2014年ドイツ・グラモフォンよりCDデビュー。2018年かがわ21世紀大賞受賞。

**ゲルギエフ指揮
マリインスキー歌劇場管弦楽団 香川公演**
日時:11月29日(金)19時開演
場所:レクザムホール(香川県県民ホール)大ホール
料金:A席10,000円 ほか

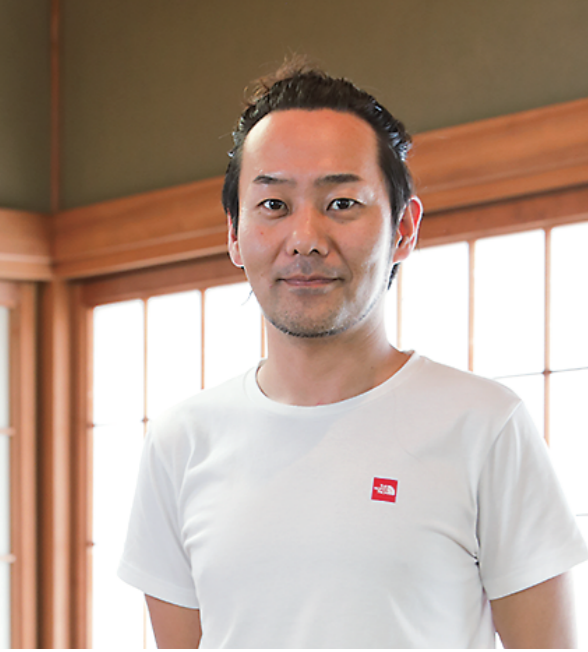
チケットについて:インターネット予約
<http://kenminhall.com/ticket/>

公演・チケットについてのお問い合わせ
県民ホールサービスセンター TEL087-823-5023





丁寧に漆を塗り一日寝かせて、さらに塗り重ねていくため、仕上げまでは何日も要する。座り込んで作業を続ける。



香川漆器ブランド「87.5」
佐々木 康之氏

康之氏の作品はピビットでエッジが効いたと評価され、若い感性を大いにくすぐる。「かがわ県産品コンクール」でも受賞を重ねている。



こんびらさんの伝説を秘め
今に伝わる讃岐一刀彫
殿様に愛された香川漆器の技をまとい
世界で唯一のメタリックな
“だるま”が生まれた

銀へたりだるま
海の神様の門前町で生まれた転覆しない「へたりだるま」。現在は、香川県ではなじみ深いクスノキを使い、全面に彫刻を施す。さらに令和時代の「へたりだるま」は、強く美しく銀色に輝く。

銀へたりだるま

独特のデザインは長年にわたり多くの人を魅了してきたが、令和時代になってさらに個性的な「へたりだるま」がデビューした。ノミを振るつたのは三代目山中象堂氏。その伝統の技に新たな輝きを加えたのは、川口屋漆器店の3代目・佐々木康之氏とのコラボレーションだ。香川漆器ならではのカラフルな独楽塗や、象谷塗の技法を駆使し、今の暮らしに馴染む作品を意欲的に創作している佐々木氏から提案されたのは、漆の上に銀箔を貼る「銀へたりだるま」。メタリックの鎧を着けたようなだるまは、ノミの刃痕が一層引き立ち、さらに気迫を増して未来をにらむ。歴史を秘めながら斬新なデザインである「へたりだるま」がメタリックに輝くことで、「これまで手に取ることがなかった若い世代が、伝統工芸の面白さや可能性に気付いてくれることを願っている」と二人の3代目は語る。新たな色に挑むという次回作にも期待が高まる「へたりだるま」である。



87.5(川口屋漆器店)
香川県さぬき市長尾西2041
TEL 0879-52-2260
OPEN 10時~17時(不定休)



山中象堂
香川県仲多度郡琴平町980(金刀比羅宮参道口から石段の38段目)
TEL 0877-73-3009
OPEN 10時~17時(不定休)



店舗内の工房で黙々と木を彫る山中竹志氏。最初は力を入れてダイナミックに彫り込んでいき、仕上げの細かい表情は30ほどのノミを使い分ける。



明治末期、最初に作られた「へたりだるま」に続き、一家の繁栄を願う恵比寿や福祿寿などの七福神をはじめ多くの仏像や置物が作られてきた。たたきノミの荒々しい刃痕を残しながら、細部は小ノミを駆使し繊細な表情を作り出す。



讃岐一刀彫宗家山中象堂
山中 竹志氏

だるまだけでも1万個を刻んだのではという山中象堂三代目山中竹志氏。娘さんがポップな絵付けを行うPOPだるまも人気を呼んでいる。

香川・愛媛 せとうち旬彩館

KAGAWA EHIME
SETOUCHI SHUN SAI KAN
東京・新橋アンテナショップ

香川の魅力を発信

香川・愛媛せとうち旬彩館を
支える人たち

1F 特産品ショップ
店長 齋藤 誠 氏(東京都出身)

「私のお気に入りにはオリーブオイルと讃岐うどん。この商品に初めて出会った時、腰が抜けるほどおいしいと思いました。コシの強いうどんは毎日食べ



ても飽きません。香川県には毎年、産地巡りに行っています。親しくなった方からは香川の最新の情報を教えてもらっています。旬彩館は、香川の旬を体験できるお店。皆さん、ぜひお越しください。」



2F 郷土・せとうち料理「かおりひめ」
料理長 鹿野 貴弘 氏(青森県出身)

「4月に着任し、7月に初めて香川県を訪れました。香川県の四季折々の食材を、どう生かし、どう味わってもら



か、研究の毎日です。おいしい県産食材と、これまでの経験を生かし、ここ『かおりひめ』だけのオリジナル香川県料理を提供していきたいと思っています。」



真だこの唐揚げ

〒105-0004 東京都港区新橋2-19-10新橋マリンビル1・2階
http://www.setouchi-shunsaikan.com
観光情報コーナー TEL03-3574-2028

瀬戸内国際芸術祭2019 公式ガイドブック秋会期版冊子

配布中

瀬戸内国際芸術祭2019を楽しむには欠かせない公式ガイドブックの、秋会期版冊子が登場。公式ガイドブックをすでに購入されている方には、無料で配布しています。

受け取りには、現在お持ちの公式ガイドブックの提示が必要です。忘れずに配布場所へ持参してください。



- 【配布場所】
- ・瀬戸内国際芸術祭総合案内所(高松市サンポート1-1旅客ターミナルビル3階)
 - ・香川県東京事務所(東京都千代田区平河町2-6-3都道府県会館9階)
 - ・香川県大阪事務所(大阪市中央区東心斎橋1-18-24 クロスシティ心斎橋4階)
- ※秋会期中は、瀬戸内国際芸術祭会場の案内所でも配布しています。(一部除く)

【問い合わせ】 瀬戸内国際芸術祭総合案内所 TEL087-813-2244

〔東京で味わえる香川の恵み〕

香川の食材に東京で出会った。
まずは東京で。次はぜひ本場香川へ



産地直送
自然の甘み

「農園野菜のバーニャカウダ」

東京のJR上野駅前、ガラス越しに見える竹の装飾。創作和食ダイニング「音音上野パンブーガーデン店」では、安心・安全・無農薬をコンセプトに、香川県産食

材などの、国産食材にこだわった創作料理が楽しめます。

お薦めは、「農園野菜のバーニャカウダ」。産地直送で仕入れた香川の県産野菜が、おいしくいただける逸品。季節や日によって、使用する野菜が異なるので、訪れる度に、新しい出会いが待っています。「黒ニンジンや赤らっきょう、コリンキにアスパラをはじめ、瀬戸内の温暖な気候で育った香川の野菜は、えぐみが少なく、自然の甘みを楽しめる」と語る越谷料理長。豆乳で伸ばしたアンチョビソースは体に優しく、県産野菜のおいしさも引き立てます。

他にも、オリーブ牛、オリーブ地鶏(讃岐コーチン)、瀬戸内の魚など、香川県産食材を使用したメニューが豊富。「東京では、なかなか食べられないほど新鮮でおいしい」と、香川から空輸で仕入れた鮮魚の刺し身も越谷料理長のお薦めです。

産地直送で新鮮な香川の恵みを、ぜひ一度味わってみてはいかがでしょうか。



【音音 上野パンブーガーデン店】
東京都台東区上野公園1-52パンブーガーデン2階
TEL03-5807-2244 www.otooto-gohan.jp

全国から「ご当地うどん」「年明けうどん」が大集合!! 「全国年明けうどん大会2019 in さぬき」

今年も「全国年明けうどん大会inさぬき」が、うどん県・香川で開催されます! 食べて、学んで、体験できる、うどんづくしの2日間。全国からの年明けうどんの出展に加え、手打ちうどんのワークショップも開催します。ステージイベントではうどん県副知事で俳優の要潤さんや、うどん県PR団「ヤドン」も登場予定。皆さまのご来場をお待ちしています。



(参考)「全国年明けうどん大会2018 in さぬき」の様子

【開催日】12月7日(土)・8日(日)
【場 所】サンメッセ香川(大展示場) 高松市林町2217-1
※会場は高松中央ICから2分。
JR高松駅・高松空港から無料シャトルバスを運行

【問い合わせ】 香川県県産品振興課 TEL087-832-3385

全国年明けうどん大会



うどん県×ヤドン 「ヤドンパラダイス in 香川 2019」開催中



現在、香川県では株式会社ポケモンとのコラボイベント「ヤドンパラダイスin香川2019」を開催しています。

イベントでは、ポケットモンスターのキャラクター「ヤドン」が、「うどん県PR団」として、香川県の県産品や観光地の魅力PRに大活躍。

期間中は、観光地を巡って集める「うどん県×ヤドン スタンプラリー」のほか、香川県限定で発売されるコラボ商品、県内3カ所に設置されたヤドンの顔出しパネルなどが楽しめます。「ことでん」では、この機会にしか手に入らないヤドンデザインの一日フリー切符が発売されていますので、県内の観光地巡りに利用してみてください。

さまざまな場所でヤドンと出会うことができるこの機会に、大人も子どもも一緒になって、香川の観光をお楽しみください。

【期間】2020年1月31日(金)まで

【問い合わせ】 香川県観光振興課 TEL087-832-3379

「ヤドンパラダイスin香川2019」特設サイト <https://yadon.my-kagawa.jp/>

「教員のまま、かがわ暮らし」 UJIターン型教員採用選考試験(東京・大阪)実施



香川県では、県外の公立学校の教員の方を対象に、東京と大阪の2会場で、小学校教員採用選考試験を実施します。

都市の利便性と豊かな自然が調和した香川県は、京阪神や四国3県へのアクセスがやすく、災害が少ない自然環境などからも、移住先として多くの方々に選ばれています。

移住を考えている方、またふるさと香川へのUターンを考えている方、ぜひこの機会に、「教員のまま、かがわ暮らし」を始めませんか。

【募集期間】9月17日(火)～10月1日(火)
【試験日程】(東京会場)10月19日(土) (大阪会場)10月26日(土)
【試験内容】小論文・模擬授業・個人面接

【問い合わせ】 香川県教育委員会事務局義務教育課 TEL087-832-3743
<https://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyouji/koko/saiyo/>

何でもない日常が、絵になる。 テーマは「絵になるけん、うどん県」

絵になるけん、うどん県 絵になるけん、アート県



今年で9年目を迎える「うどん県。それだけじゃない香川県」プロジェクト。

今回のテーマは「絵になるけん、うどん県」です。絵に描いても写真に収めても美しく楽しい「絵になる」香川県の魅力を発信します。

プロモーション映像では、うどん県副知事の要潤さんと「アートを極めた男」宮本亜門さんが、それぞれスケッチブックとカメラを持って、香川の「自然」と「アート」を楽しみます。

「瀬戸内の海」や、眼下に絶景が広がる「天空の鳥居」。瀬戸内国際芸術祭の舞台となる島々、そしてそこに調和するアート作品の数々。

香川の「絵になる」風景を、皆さんも自由に切り取ってみてはいかがでしょうか。

【ホームページで公開中】

「絵になるけん、うどん県」西エリア編、東エリア編

「絵になるけん、アート県」高松港・女木島エリア編、男木島エリア編

【問い合わせ】 香川県観光振興課 TEL087-832-3379

<https://www.my-kagawa.jp/udon-ken/>

香川県立ミュージアム 特別展「日本建築の自画像 一探究者たちのもの語りー」

香川県立ミュージアムでは、特別展「日本建築の自画像ー探究者たちのもの語りー」を開催します。

「日本建築」とは何か。どういったところが、「日本的」なのか。本展では、「日本建築」というイメージを、建築史家、建築家、地域の人々の3つの視点から映し出される「自画像」と捉えて紹介。時代背景や思想、また瀬戸内や沖縄といった地域から見える、「日本」のありようにも注目し、「日本建築」とは何かを改めて問い掛けます。



香川県庁舎 丹下健三1958 撮影：市川靖史

設計図や写真、建築模型や動画を用いて立体的に構成された展示も、お楽しみください。

【日時】9月21日(土)～12月15日(日) 9時～17時
毎週月曜日休館(月曜日が休日の場合は翌火曜日)

【会場】香川県立ミュージアム(高松市玉藻町5-5)

【料金】1200円 ※前売・団体(20人以上)、瀬戸芸パスポート提示(1回限り)は1000円

【問い合わせ】 香川県立ミュージアム TEL087-822-0002
<https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/>